

知事記者会見の概要

日 時：令和7年11月19日（水） 9:45～10:13

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 空港機能強化検討会議の設置及び開催について

代表質問

- (1) モンテディオ山形新スタジアム建設について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して
- (2) 中国政府による日本への渡航自粛等の呼びかけについて
- (3) 山形県クマ被害防止緊急対策について
- (4) 代表質問に関連して

<幹事社：朝日・荘内・NHK>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。大変寒くなってまいりました。県民の皆さんには、くれぐれも体調管理に努めていただきますようお願いいたします。

インフルエンザの流行について申し上げます。先週、11月12日に公表した本県の1定点当たりのインフルエンザ感染者数が26.36となりました。5週連続の増加となります。

特にこのうち、山形市を除く村山地域、最上地域及び置賜地域で、1定点当たり30を超えて、この3つの地域では警報レベル（補足：30超／定点）となっております。

全国でも、34の都道府県が注意報レベル（補足：10超／定点）を超えており、そのうち、5つでは警報レベルを超えている状況で、全国的に流行の拡大が見られます。

県では、11月5日にインフルエンザの流行が注意報レベルに達したことを発表し、県民の皆様へ感染予防を呼びかけております。これから寒い時期を迎え、さらに感染の拡大も予想されます。

基本的な感染対策が重要でありますので、県民の皆様には、換気の徹底をはじめ、場面に応じたマスクの着用や手洗い・消毒を心がけていただきますとともに、体調不良時に備えて、市販の解熱鎮痛薬等のご準備をお勧めいたします。

☆発表事項

知事

それから私から発表が1点ございます。

お手元に資料を配布しておりますが、山形空港、庄内空港のそれぞれで「機能強化検討会議」を設置し、第1回検討会議を11月27日に開催しますので、お知らせいたします。

昨年は、各空港で「空港将来ビジョン検討会」を開催し、有識者や自治体、商工や観光の分野で活躍されている方、さらには学生さんなど、様々な立場の方々から、両空港のあり方などについて、幅広いご意見を頂戴したところです。

今年度は、こうした意見を踏まえながら、滑走路延長を含めた空港の機能強化について、議論を前に進めていく考えでありました。この議論の場として、「山形空港機能強化検討会議」及び「庄内空港機能強化検討会議」を設置することとしたものであります。

検討会議では、地域のために空港が果たすべき役割と、その実現に向けて必要な空港機能強化の方向性について議論をいただき、令和8年度中に、山形空港、庄内空港それぞれの「空港将来ビジョン」策定を目指してまいります。

委員の構成につきましては、加藤慶応大学商学部教授を座長とし、山形大学の山田教授、茨城大学の平田教授らの学識経験者や、国内外の航空会社などの空港関係者、商工・観光などの関係者、周辺市町の皆様などとなります。このほか、オブザーバーとして国土交通省航空局、内閣府防災担当からもご参加いただくこととなっております。

この会議を通して、それぞれの地域における将来の空港のあり方について、しっかりと議論を深めていただきたいと考えております。私からは以上です。

☆記者クラブ代表質問

記者

NHKの内藤です。よろしくお願いいたします。

幹事社からの質問です。モンテディオ山形の新スタジアムの建設費用をめぐりまして、およそ 50 億円の提供が見送られたことについて、運営会社は、国内外で新たな出資先を探しているものの、めどはたっていないというふうに明らかにしました。県としての受け止めと、県が行う補助金を通じた支援への影響、それから今後の対応について教えていただければと思います。

知事

はい、ではお答えいたします。モンテディオ山形の新スタジアム整備につきましては、新スタジアムの建設・運営などを行う株式会社モンテディオフットボールパークによる民設民営の施設として、令和 10 年夏頃の開業に向けて準備が進められているものと承知をしております。

新スタジアム整備により新たなにぎわいが創出され、若者の県内定着や交流人口の拡大にも寄与すると考えられたことから、県としては天童市との共同申請による第 2 世代交付金の活用、また、企業版ふるさと納税の受入れを通して、新スタジアム整備に要する資金確保を支援することとしたものであります。

このような中、先月 29 日にモンテディオ山形から、株式会社モンテディオフットボールパークが推進する新スタジアム建設及び運営を中心とした事業に関して、民間企業による支援の解消について合意に至った旨の発表がありました。

このたびの支援解消により民間企業、株式会社 SCO グループですけれども、から見込んでいた資金は約 50 億円であり、株式会社モンテディオフットボールパークとしては年内に資金確保のめどをつける方針であると報道があったことは承知をしております。

現在、新たな資金確保に向けて、株式会社モンテディオフットボールパークが国内外の企業と交渉しているものと承知をしております。それで県としましては、資金確保に向けた動きを注視してまいります。

なお、補助金を通じた支援につきましては、注視をしてどうなっていくかということを見た上で、適切に判断してまいりたいと考えております。

☆フリー質問

記者

山形新聞、稲村です。おはようございます。

山形空港・庄内空港の発表の件でお尋ねします。リリース見てちょっと書いてないのですが、当然、滑走路延長も視野に入れた今回の会議設置というふうに捉えて問題ないでしょうか。

知事

そうですね、昨年、両空港のあり方について幅広くご意見をいただいたんですけども、こうしたご意見を踏まえながら、滑走路延長を含めた空港の機能強化について議論を前に進めていくということで、その議論の場として検討会議を設置するというところでございます。

記者

ありがとうございます。それで、これ何度もお聞きしてますが、改めて滑走路延長の必要性・重要性を、知事は今現在どうお考えなのかをお聞きできればと思います。

知事

はい。従来から申し上げているのですけれども、山形県には2つの空港があつて、山形空港も庄内空港も滑走路は2,000mでありまして、東北の中で2,500mの空港がないのは本県だけということで、大変、観光で外国に行つてですね、チャーター便を誘致しようとしてもちょっと短すぎるとかですね、様々なことを何回も言われまして、インバウンドのためにも、ここは滑走路を延長すべきだというふうに、最初にそこから私は始まりました。そしてよく考えてみますと、山形空港などはですね、東日本大震災の時に本当に防災拠点空港として大活躍をした空港であります。非常に重要な空港であります。将来に向けてやはり、しっかりと滑走路を延長してですね、防災拠点もそうですし、インバウンド、様々な点で山形県にとって必要な機能強化であるなと思つているところでございます。

記者

おはようございます、TUYの山口と申します。

ちょっと話が、今回の話とはずれてしまうのですけれども、高市総理の発言で日中関係の緊張感が高まっていると思うのですけれども、知事の所感であつたり、政府に何か要望したいことであつたりなどはありますでしょうか。

知事

はい、そうですね。中国政府が台湾有事に関する高市首相の国会答弁を受けて、自国に対して、日本への渡航自粛、日本への旅行を当面の間控えるということや、留学について

は慎重に検討することなどの呼びかけを行っているということにつきましては、報道で承知をしております。

今回の件につきましては、外交上の事案でありますので、日本政府において適切に対応されるものと考えております。私としては、できるだけ早期に事態の沈静化が図られるということを期待しております。

県としましては、政府の動向を注視しながら情報収集に努めていきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。あともう1点ありまして、高市総理の発言に対して中国の総領事が「汚い首は斬ってやる」などの発言をしていましたけど、知事はどのように捉えていますでしょうか。

知事

それもですね、報道で承知をしておりますが、やはり外交に深く関与することですので、日本政府として適切にしっかりと対応していくのが望ましいというふうに思っております。外交についてこれ以上はあまり私の立場では申し上げないほうがいいのかなと思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

NHKの内藤です。

今の高市総理の台湾有事を巡る発言の関連で、中国政府が中国国民に対して日本への渡航を控えるよう呼びかけているということで、県内の観光への影響とかですね、あるいは友好交流活動への影響、あるいは経済とかですね、そういった影響を今どういうふうに把握されているか、あるいは把握していないとしたら今後調べたりされる予定があるのかどうかといったところを伺えればと思います。

知事

そうですね。友好交流もありますし、観光でたくさんの方々に来ていただいているということもございまして、やはりそういう点では私も心配をしているものですから、早期に解決に至ってほしいなというふうに、事態が早期にですね、沈静化なってほしいなというふうに思っているところです。それで今、記者さんの問いですけれども、宿泊施設や観光立ち寄り施設など、県内の観光事業者に聞き取りを行いました。そうしたところ現時点で

は、中国・香港からのキャンセルや問い合わせなどはなく、影響は出ていないと伺っております。あくまで現時点では、でございます。しかしながら、情勢は日々変化していくことが想定されます。県としましては引き続き県内観光事業者などから聞き取りなどをいたしまして、状況の把握に努めていく所存でございます。

記者

朝日新聞、斎藤です、おはようございます。

クマ被害対策について伺いたいと思います。先日17日に第2回の緊急対策会議をされまして、その中で山形県版のクマ被害対策パッケージというものを公表されました。その中で新たなモニタリング手法の検討ということで、山形大と連携して令和7年度から始めるというふうな、知る対策ということで載っていましたが、その関連なのですが、そもそも山形県内のツキノワグマの生息数というのは、これは推定になるかと思うのですけれども、推定何頭ぐらいというふうに県としては把握されているのでしょうか。

知事

推定、頭数把握の推定ということにつきましては、ちょっとここに資料がございませんので、担当おりましたら、はい。環境エネルギー部からお答えいたします。

県環境エネルギー部次長

はい、環境エネルギー部でございます。

総数の把握というふうなことでのご質問かと思います。令和5年度（会見終了後に訂正：令和4年度当初）の時点ですでに、2,300頭というふうな数字を把握しておりますが、実はその総数把握がかなり難しくなっているというふうなことがあっての、このたび改めて山大と連携したモニタリング調査という新たな取組みを行うというふうなことでございます。

記者

はい、ありがとうございます。正確な数を把握するのは難しいということですが、ツキノワグマ全体として個体数が増えているのかそれとも減っているのか、そのあたりのトレンドとしては県としてはどういうふうに把握されているのでしょうか。

知事

そうですね、トレンドと言いますか、やはり目撃件数が増えている、出沒件数が増えているというようなことから見ますと、増えているのではないかと思いますけれども、やはりはっきりしたことは申し上げられないということがあります。なぜならば、やはり、餌となる食べ物がですね、大凶作で、里に降りてこざるを得ないという状況がある、とか

ですね。あるいは、シカが増えているのじゃないかとかイノシシもクマの餌をちょっと獲っているというような、そういういろいろな総合的なものもありますので、一概にはつきりとは言えない。そういった点も含めてやはりしっかりと調査をしていただく必要があるなというふうに考えたところです。

記者

はい、ありがとうございます。続いて体制についてなのですが、山形版のパッケージの中では、中間支援組織の設置を検討するというふうな項目もあります。これは従来の行政市町村とか、それから県猟友会による捕獲体制ということが現状ではもう限界になっているということを背景としてこういった中間支援組織というものを整備されるのか。その設置の背景などについてどのように思っていच्छいますか。

知事

そうですね、県と市町村とですね、話し合いを行っている最中だと聞いております。その上で今記者さんがおっしゃったようにですね、様々なその課題がありますので、どういった体制が望ましいのかということで今話が進んでいるというふうに担当から聞いております。

やはり体制をしっかり固めていくということもですね、中期的と言いますか、今すぐはできなくても、中長期的にはやはりそここのところも大変重要な要素であるなというふうに思っています。

記者

そうしますと、すいません、今年は異常にクマの出没件数が増えてますが、これは今年度限りということではなくて今後もこういう状態が続く見込みだということを想定して、こういった体制整備をされるということなんでしょうか。

知事

そうですね、とにかく今年はもう異常な事態だというふうに思っております。まず緊急対策ということをや々と打ち出しているわけなのでありますけれども、やはり今後また同じような事態、またそれ以上の事態になっていくのかというようなことを考えた時には、やはり中長期的な体制なり、いろいろな仕組みと言いますか、取組みが必要になってくると思います。

また、人口がですね、高齢化しているというようなこともあり、猟友会でありますとかそれぞれの県や市町村の担当者がですね、やはりいろいろな役割分担をどういうふうにしていくのかというようなことも含めて、クマのほうの状況も、また人間のほうの状況も両方考えながら体制というものを考えていかなきゃいけないというふうに思っています。

記者

さくらんぼテレビの柿崎と申します。よろしくお願いします。

トピックスとしてクマとモンテディオの2点お伺いしたいんですけども、先にクマの件で。

今いろいろ調べている中で、各市町村ごとで猟友会の方々への報酬というか時給であったり、1頭当たりの捕獲した際の報奨とか、結構開きがあるような状況となっております。今まではそれでも問題はなかったのかもしれないんですけども、今年状況になってきて、どこでもクマが出てもおかしくない、備えるといった状況の中、そういった市町村ごとで猟友会の報奨の開きがあるということに関して、知事としてはどのようにお考えでしょうか。

知事

そうですね、猟友会の中でのいろいろなということに関しては、私は今情報を手元に持っておりませんが、ただ、猟友会として県に要望がございまして、その中では従来の報酬よりももう少し上げてほしいというような要望がございまして、それはしっかりと政府のほうにお伝えをするということをお答えしたところであります。

記者

今後、その猟友会の方々への報奨、市町村ごとでの今のような開きがある状態がいいのか、それとも一定にしていくべきなのかというのは、何かお考えはございますでしょうか。

知事

そうですね、そこはやはりしっかりと状況を把握しながら、お話もお聞きしながら県として考えていきたいというふうに思っています。

これは、いいのか悪いのかと言ったらですね、どうしてそういうふうになっているのかなということも含め、しっかりと把握をして、そして考えていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。続いてモンテディオのスタジアムの件なんですけれども、知事ご自身の所感というか、最初にSCOグループさんと離れることになったというお話を聞いた時に、県としてもいろいろ支援なんか進んでいた状況の中、どのように感じられましたでしょうか。

知事

そうですね、順調に行っているものと思っておりますので、そういうふうな状況になっ

たということを担当を通してですね、そういう報告だけを聞いたものですから、ちょっとびっくりしました。

なんていうんですか、順調に進んでほしいなというふうに思っていたものですから、私としてはその時点で大変驚いたということで、どうしてそうなったのかなというふうに思いましたけれども、そういうところはさっぱりわかりませんので、まず次の新しいスポンサーを探しているというようなことをお聞きしましたので、その新しいスポンサーが確実にしっかりと早く見つかってほしいなというふうに思っているところです。

記者

先ほどの代表質問のほうで、今後の状況を見ながら協力していくということでしたけれども、あくまで可能性としてなんですけれども、例えばもう支援を見送る、もしくは予定よりも増額するというようなことも踏まえた上で協議されるのでしょうか。

知事

いや、それは現時点では何とも言えません。新しいスポンサーがですね、首尾よく見つかった場合にはですね、今までのとおりで行けると思っておりますし、そうでない場合にはどうするかといったことまで、現時点ではまだ検討しておりません。

記者

ありがとうございます。

記者

何度も申し訳ございません。TUYの山口です。

先ほどの中国との関係の質問になりますので、知事的には今の日中のやりとりというのはどのように見えているか、どのようになっていってほしいか教えていただければと思います。

知事

はい。そうですね、外交の問題でありますので、何度も申し上げますが、私として今回のことについてですね、コメントする気はございません。

ただ、本当に国際関係というのはなかなか難しいものだなというふうに思いますし、そしてそういったことである日突然状況が変わってですね、今大変な状況になっているわけなんですけれども、やはり様々な対話の努力を続けていただいて、1日も早く打開に向けて進んでほしいなというふうに思っています。

やはり事態が沈静化してほしいというのが一番の望みであります。